

第7回障害者スポーツ推進協議会の開催結果について

日 時 平成30年12月20日（木）14時～16時
場 所 京都府公館第5会議室

【主な意見等】

- ・ スポーツ活動に関する情報が発信されても受け取ってもらいたい人に十分届いていない。具体的には競技団体から支援学校へ全国大会の選考会や試合の案内を出しても、子ども達まで届いていなかったり、代表の方までで止まっていたりということがある。工夫が必要。
- ・ 身体に重度の障害がある生徒が出場するときは、引率する先生やヘルパーの手助けが不可欠。1人では参加できない人が出場できる体制を考えなければ、裾野の拡大は難しい。
- ・ 身体障害者を対象としたスポーツ大会への参加者数が減少している。支援学校に通う生徒の大半が知的障害者や重度の方となってきた。学校の卒業がスポーツの切れ目とならないよう、OB会などを作って支えてほしい。
- ・ 多くの身体障害児は一般校に通っており、そこへどのように案内を届けるかが情報の周知徹底・発信に繋がっていくのではないか。
- ・ 支援学校には親の会があり、親には届いているが、子どもに届いていないという現実もある。地元の市町関係課から団体を通して伝えたり、子ども達が集まりやすい場所に案内を置いてもらったりする等の工夫が必要。
- ・ これまで障害のある人や子どもに対するスポーツ指導を教員養成課程では持っていなかったため、一般校からの選手発掘にはつながりにくい。ダイヤの原石を発掘するために一般校に対しても情報を発信し、その情報の詳細についてはプラットフォームで共有できるようなシステムを作ってはどうか。
- ・ 選手を一から発掘するよりも、何かスポーツをやっていた人が他の種目のスポーツもするというパターンも多いので、そのような機会を作ってはどうか。

- ・ 障害者スポーツ指導員について、講習会の開催回数の増加に伴い、少しずつ増えているが、活動の場うまく繋がられていないことが課題。スポーツ大会において、指導員でない方がたくさん手伝っておられる例もあり、実は活動場所はたくさんあるのではないか。選手が指導者としても活動していける場作りも必要。
- ・ 学校教員をターゲットにするのであれば、養成の時期を夏休みにもってくと良いのではないか。スポーツ推進委員には指導者資格保持者も多いので、そういうところで広げてもらいたい。
- ・ プラットフォームに多くの個人・法人に入っていて、更に多くの情報を双方向に流せるようにしていきたい。
- ・ 障害者スポーツをサポートするには、スポーツや教育の論理で進めるよりも、福祉や医療の面からどのようにサポートしていくかという方向で進めた方が良いのでは。医療から障害者スポーツが途切れないように、どのように繋いでいくかが課題。